

校内慰霊祭特設授業資料

令和2年、6、22(月)特設授業

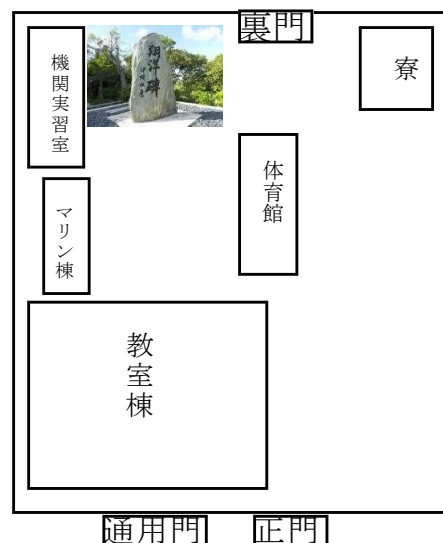
今年で戦後75年目を迎えます。鉄血勤皇隊(※①)や従軍看護隊と、皆さんと同じ年頃の若者達が、戦地に駆り出されたことは知っていると思います。沖縄水産高校の生徒達も例外ではありませんでした。沖縄水産高校の敷地内に「翔洋碑」という慰霊碑が建っているのですが、近くまで行ってしっかり見たことがありますか?どのような意味のある慰霊碑なのか、沖縄水産高校の生徒として、しっかり勉強して考えてみよう。

1. 「翔洋碑」とは

沖縄戦で戦没した沖縄県立水産学校の生徒53人、同窓生104人(昭和12年以降の日中戦争以降の戦没者を含む)、職員7人、計164人を祀っている慰霊碑です。



翔洋碑(建立年月日 昭和37年12月9日)



2. 「水産鉄血勤皇隊」「水産通信隊」として戦地に駆り出された様子(創立100周年記念誌より)

昭和19年10月10日(※②)

第二次世界大戦益々熾烈を極め、米軍の空襲により本校校舎全焼す。那覇市下泉町の民家を借用して授業を行う一方、軍の陣地構築に協力する。実習船の海邦丸、軍に徴用され沈没する。

昭和20年1月31日

本科2年、3年生に対し鉄血勤皇隊(「水産鉄血勤皇隊」として動員下令。石部隊(※④)に入隊。恩納村の恩名岳で情報収集などの後方任務や、直接の戦闘に参加し、殆ど全員戦死する。

昭和20年3月27日

本科1年、2年生より通信隊(※③)に志願。球部隊(※④)に招集編入される

(「水産通信隊」)。首里の第32軍(※⑤)司令部壕で通信任務についていた。殆ど全員玉砕(※⑥)す。

昭和20年3月31日

戦闘中、宜野湾村農民道場において生存者若干名を集めて第25回卒業式を挙行。

昭和20年8月15日

第二次世界大戦終結により本校自然閉校となる。

<※印の説明>

①鉄血勤皇隊(てつけつきのうたい)
太平洋戦争(大東亜戦争)末期の沖縄戦に動員された日本軍史上初の14-17歳の学徒隊。徴兵年齢に達していない少年を動員した。法的根拠がなかったため、形式上は「志願」とされ親権者の承認が無ければ動員が出来ないことになっていた。しかし学校が同意もなく印鑑をつくり書類を作成したこともあり、事実上強制であったような例もある。

②十・十空襲
太平洋戦争後期の1944年(昭和19年)10月10日に、南西諸島の広い範囲でアメリカ海軍機動部隊が行った大規模な空襲。

③通信隊
暗号を記憶し、情報交換などを行う仕事。激戦地を電話線のリールをかつぎながら走り回るので、敵の標的にされやすかった。また、身軽にするため、武装もしていなかった。

④石部隊(いしぶたい)、球部隊(たまぶたい)
日本軍にはスパイ防止などの必要から、固有の部隊名のほかに通称があり、正式部隊名よりも「武」「球」「石」などの呼称が使われた。

⑤第32軍
大日本帝国陸軍の軍の一つ。

⑥玉砕(ぎよくさい)
「玉と砕ける」(玉のように砕ける)こと。太平洋戦争における日本軍部隊の全滅を表現する言葉として用いられた。